

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.13 リチウム電池による食道粘膜損傷の類似事例 1

事例	年齢：4歳7か月 性別：女 体重：18.4kg 身長：110.2cm
傷害の種類	誤飲
原因対象物	ボタン式リチウム電池(CR2016)
臨床診断名	食道・胃粘膜損傷
医療費	外来費 25,490円 入院費 270,150円 計 296,640円
発生状況	発生日・時刻 2016年11月10日 不明(午後9時00分～午後9時45分の間と推定)
	発生時の詳しい様子と経緯 同日午後5時頃に父が電子体温計のリチウム電池を交換し、使用済みの電池を廃棄用のビニール袋の中に入れ、キッチンにある高さ100cm弱程の棚上の手前に置いていた。午後8時30分頃から午後9時頃まで児は夕食を問題なく摂取していた。夕食までの児は普段と変わった様子はなかったが、詳細な行動は不明。午後9時45分頃、居間にて児が啼泣しながら胸部痛を訴えたため、誤飲を疑って父がトイレで児の口に指を入れて催吐するも排出物は認めなかった。以降疼痛の訴えはなくなったため経過をみていた。その後、前述のリチウム電池がなくなっていることに父が気づき、誤飲の疑いのため午後10時20分に病院を受診した。
治療経過と予後	病院受診時、呼吸困難感や胸痛、嚥下時痛は認めず、バイタルサインは安定していた。胸腹部単純X線写真で胃内に直径2cm大の類円形の異物を確認し、全身麻酔下での緊急内視鏡検査でリチウム電池を摘出した(写真1,2)。摘出までに誤飲後4時間程経過していた。食道下部に電池が停滞した際に生じたと考えられる粘膜損傷を相対する二箇所にも認めた(写真3)。また、胃底部に食物残渣と電池を確認し、摘出後の同部位に粘膜発赤を認めた(写真4,5)。入院当日は絶飲食、補液管理とした。穿孔を疑う所見はなかったため、覚醒後から経口摂取を開始した。疼痛が生じることなく経口摂取可能であることを確認し、入院翌日に退院した。



図1



図2

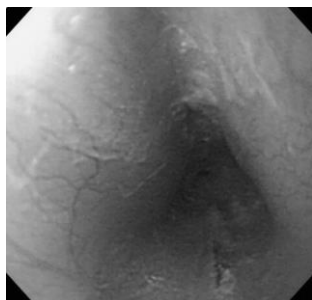


図3

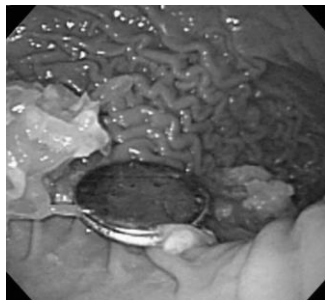


図4

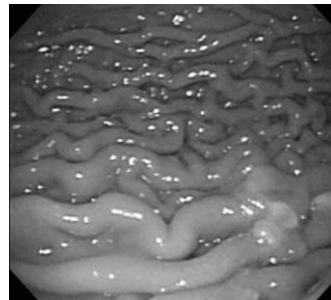


図5